

出版稲門会



●寄稿：出版三田会会長 鈴木一行（1頁）

●学友：谷口奈緒美／橋田祐孝／木原 篤／佐々木謙一／篠原達也（2-3頁）

●特別対談：富樫 建×筑紫恒男（4-5頁）

●発行 出版稲門会 〒110-0016 東京都台東区台東2-24-10
株新星出版社 内 電話 03-3831-0743

●発行人：筑紫恒男 ●編集人：富永靖弘

●019号 2024年10月1日発行

題字：服部敏幸

出版稲門会の皆様、本年は創立40周年を迎えられたと承知しております。誠にありがとうございます。

また、節目に相応しい出版三田会との合同懇親会が開かれる年です。出版界に身を置く会員で構成される早慶両校の懇親会に、お互いから大勢の皆様が参加されることを祈念しております。

私は現在、出版三田会の会長を仰せつかっております、大修館書店の鈴木一行と申します。来る合同懇親会開催に向けて、事務局長・幹事・運営委員にて鋭意準備を進めている最中です。

さて、私が慶應義塾に入りましたのは高校の時で、一時間かけて日吉の校舎まで毎日通っております。その時は体育会バスケットボール部（高校にも体育会と同好会がありました）に入部して、2年半の間、勉学以上にバスケットボールに打ち込んでいました。

残念ながら、三年生の春に椎間板ヘルニアを患い、せっかくチームはインターハイに出場したのですが、私は病院のベッドで腰痛に唸っております。

夏の甲子園、 明治神宮野球大会のW制覇と、 バスケットボールの インターハイ準優勝と

ました。しかしながら、私の生涯でとてもすばらしい思い出となっております。

昨2023年、塾高野球部が夏の甲子園大会制覇をいたしました。バスケットボール部も一度だけインターハイで準優勝したことがあります。野球部優勝には大いに湧いたのですが、私の中では、



鈴木一行

出版三田会会長
大修館書店社長

それは大騒ぎとなりました。稲門会の皆様にとっては、甲子園の優勝も大学野球部の優勝も、何れもその目で見ているらっしゃるかとは思いますが、塾にとってはたいへんな出来事でした。

大学を卒業して社会に出た後も、塾の存在は大きいものがある、企業内三田会と地域三田会に入会して、現在も出版三田会を含めて二つの三田会に入会しております。

よく世間では、塾卒業生はすぐにつるむと言われておりますが、それだけ居心地の良さがあるのだと感じております。稲門会もそうかもしれません。三田会は遠慮せずに、塾の思い出話に花を咲かせることができ、今年も母校はどうだったという情報を交換もできるということで、毎年の三田会総会も盛り上がりつつあります。

今度の合同懇親会も、最も親しい関係の同窓会として、お互い遠慮なく語り合えれば幸いです。

両会の末永いお付き合いを、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

（昭53・慶應義塾大学商学部卒）



早稲田の誇りと友とともに 新たな時代へ。

谷口奈緒美

入学式、大隈講堂に入ったあの日を、まるで昨日のこのように覚えてます。その日、隣に座り、緊張しながら話した同級生のことも、高らかに歌われた校歌も、入学式を終えた後の華やかなサークルの勧誘や、夥しい数のチラシ、教室のひんやりとした空気に。

友人とともに、よく学び、よく遊び、素晴らしい先生方と、あたたかい諸先輩方に囲まれ、日本で最大級の規模を誇る図書館と、貴重な資料を持つ演劇博物館と、限りなく贅沢な環境の中で過ごしました。よく大学のパソコンルームに籠っていたことも懐かしく思い出します。

普及前夜のパソコンに触れた時に感じた、自分自身の世界の広がりに対する驚きが、私自身の「書籍とデジタルの融合」というテーマに繋がっているように思います。

卒業から20年が経ち、早稲田大学で時を過ごした同級生にふたたび会い、仕事をする機会に恵まれています。卒業をしてから一度も会っていないのに、不思議とフランクを感じることなく、誰とでもフラットに、同じ視点で深い話ができることにいつも驚きますが、これが早稲田魂の一つ、早稲田生に通ずる営業マインドなのかもしれないと最近感じています。



此処はどこか？

木原 篤

先日、たまさか学生時代の友人と早稲田で会うことになった。場所はグラウンド坂下から細道を入った「志乃ぶ」。今年で創業70年の老舗だから、ご存じの方も多しはず。私も学生時代

は、サークル仲間がここでアルバイトしていた縁もあり、何度も暖簾をくぐった思い出深い店の一つだった。卒業後はすっかり足が遠のき、訪店は約20年ぶりだった。

出版業界で編集者としてヒットを出し続けている友人、作家としてデビューした友人、会社を興した友人、広告で繋がった友人など、同じキャンパスに同じ教室にいた友人の活躍に刺激を受け、意見交換しながら切磋琢磨しています。『超訳ニージェの言葉』の中に「友人とたくさん話そう。いろんなことを話そう。それはたんなるお喋りではない。自分の話したいことは、自分が信じたいと思つていく具体的な事柄なのだ。」という一節がありますが、まさにその通りです。

出版業界は変革期を迎えています。その確信を持てるのは、早稲田大学で出会ったすべてのおかげです。

（ディスカヴァー・トゥエンティワン 代表取締役 兼 社長執行役員・平16一文）

店の雰囲気もメニューも薄れている当時の記憶と相違なく、少し懐かしい感じで樽酒とおでんを堪能していたが、ふと友人から「昔、終電もなくなるまで飲んでこの店に泊まったことがあったよな」との言が…。私はすっかり忘れていたが、彼曰く、先輩達と別の店で飲んでいて、泥酔して動けなくなった私を皆で担いでこの店の二階に収容し



入れてよかった

橋田祐孝

とにかく「ワセタ」に入りたくて仕方がなかった。浪人の頃からラグビーの対抗戦を観によく秩父宮に通った。村上春樹の『風の歌を聴け』など『風三部作』が好きた。他の大学に籍はあったが「ワセタ」に拘った。文系学部はほぼ受験した。その結果、どうにか「二文」に滑り込んだ。

学生時代は超多忙な4年間だった。出版社やテレビ制作会社のアルバイト、家庭教師、テニスサークルの幹事長などの合間（？）に学校に行く体で、睡眠時間を削って動き回っていた。その合間にいろんな本を読んだ。思い出すのは「雪の早明戦」(1987年12月)。前日から席を確保するためにサークルの仲間と極寒の中、国立競技場で一夜を明かした。ご存じの通り試合は大接戦。終盤には、明治自慢のFWが早稲田のゴールラインぎりぎりに何度も詰め寄り、ハラハラドキドキの展開。大声でレフェリーに向かって「真下さあん、笛吹いてえ」と叫んでいた。ノーサイドのホイッスルが鳴った時の感激は、未だに忘れられない。

就職は、新聞社か出版社が希望だった。バブル期でもあり、運よく日本経済新聞社に入社できた。周囲にマスコミ就職希望が多い「ワセタ」出身であったことがプラスだったように思う。記者職ではなく、配属先は「出版局営業部」。出版社でいくつもアルバイト経験があったが、「出版の営業」にはまったくピンと来なかった。「本が好き」「人と会るのがそれほど嫌いではない(人見知りではありません)」ことがこの仕事に向いていたと思つている。

困ったことがある。「ビジネス系出版社だったため、学生時代までほとんど読んだことがなかった「ビジネス書」ばかりを読むようになり、自分がどんな本のジャンルの本が好きなのかわからなくなりました。

今年、年男&還暦。定年後の楽しみは、「高く積まれた読まない本」を片っ端から読むこと。それから、正月は「箱根駅伝」と「大学ラグビー」で過ごしたい。

(日経BPマーケティング取締役・平1一文)

たのだという。

カウンター越しに話を聞いていた店主も「あの頃はそんなことが沢山あったよ」と笑う始末。そう言われてみると、翌朝「此処はどこだ？」と狼狽した記憶があるような…。当時は相当に破天荒な行動をしていたのだなと思いついた一夜だった。

最近、学生時代の同窓会然り、OBを交えた親睦会等に出席する機会がとみに増えてきた。若

い時は、大先輩しかいない会には遠慮しかなかったが、参加するにつれ、ありきたりながら、人との縁が大事だとあらためて強く思うようになってきた。

諸先輩や後輩との他愛もない話の中にも、思わぬ発見や繋がりや生まれて刺激となる。その一方で、年を重ねていつの間にか小さく纏まっていたいまいかと、自身が問われている気にもなるのだ。

にいみのおばさん

佐々木謙一



入学式は人の多さに圧倒されました。岩手を離れ、初めての一人暮らしで、入学当初は知り合いが全くおらず、ホームシックになりました。数か月が経ち大学生活にも慣れ、友人もでき始めました。私の在学中は、11号館がまだ旧校舎の時代でした。かつて「ビックコミックスピリッツ」に連載されていて、80年代の商学部が舞台になってる「東京エイトリーズ」という漫画に、昔の11号館が頻繁に登場し、すごく懐かしくなりました。

友人の紹介で毎日のように通っていました。店主のおばさんは、お客さんが不在時によく読書をしていました。その影響で、食後、そのまま生協に本を見に行つて買って読むという習慣がつかまりました。退屈な授業の時は購入した本を読んでいたものです。よくおばさんは活字を読むことの重要性を説かれ、それに感化されました。大学に入るまで、あまり読書する習慣はなかったのですが、おばさんのおかげで本が大好きになり、今では本のない生活は考えられませ

今秋、「志乃ぶ」に大学生になった娘を連れて再訪するのが、近々の私の目標だ。きつとあらたな体験となるだろう。

さて、話変わって、今年から出版稲門会の親睦ゴルフ会幹事を仰せつかりました。新規参加メンバーはいつでも絶賛募集中です。

新たな縁を求める方、是非お声掛けください。

(トーン執行役員・平9一文)

卒業式の日に、「にいみに」に行きました。今までお世話になったという感謝の言葉を伝えなかったからです。その旨をおばさんに言うと、「にいみ」もこの夏に立ち退きしなければならなくなり、これを機にお店をやめるとのことです。「私も一緒に早稲田を卒業よ佐々木さん。こちらこそありがとう」と言われました。何とも言えない感傷に浸りながら、最後のさば味噌をおいしくいただきました。

にいみのおばさんは自分の記憶から恐らく消えることのない存在です。今どこでどうしているのかわかりませんが、きつと元気になっているはずで、読書をしている時、にいみのおばさんをおい出しては早稲田を懐かしく思うのです。

(マルカン社長・平16商)



今も昔も変らぬ 早稲田の杜の佇まい

篠原達也

気がつけば卒業してから今年で32年が過ぎている。在学中の1990年前後はバブル末期で賑やかな時代であった。当時の思い出といえば、4年間に2回もあった学生スト。そのたびに期末試験が中止になりレポート提出に追われた記憶が今でも鮮明に残っている。

普段はといえば学業を傍らに置き映画三昧の日々。サークルで8ミリ映画を撮り、アルバイトは新宿三丁目の映画館。連日深夜興行もあつてほぼ住み込みのように働き、空いた時間は歌舞伎町で映画を観てまわる、正に映画漬けの生活で、今思えば贅沢な時間だった。教育学部の16号館に足を運ぶのは必修授業とサークルの例会くらいだったが、行けば誰かしらいて他愛ない会話を愉しみ、麻雀早を囲んだのが懐かしく思い出される。

当然のように就職活動も映像関係を考えていたが、紀伊國屋書店の新宿本店で「噂の真相」を毎月発売日に買い求めるのが習慣だったこともあつて、ふと思いついて応募したところ、縁あつて採用されて私の出版人生

が始まった。紀伊國屋書店では岡山店を皮切りに梅田店など関西の店舗を渡り歩いたが、その頃はインターネットの勃興期と重なり、POSレジが普及しPulseが始まる頃で、商売の厳しさと楽しさを教わった。

その後、東京に戻って東洋経済新報社に転職し、営業、宣伝、制作と携わり今に至っている。東洋経済は早稲田と所縁が深く、石橋湛山のほか、創業者の一人、町田忠治も大隈重信侯とも近い存在であつたと聞く。

かくいう私は、早稲田が身近なところにながら相変わらず早稲田愛が薄い暮らしを続けていたが、学生時代からの無二の畏友が一昨年に急死。突然の訃報に途方に暮れ、自然と早稲田に足が向いた。

30年前と変らぬ早稲田の杜の空気に触れて些か感傷的になつたが、何より代えがたいこの佇まいに感謝の気持ちで俄に湧きあがり、昨年より出版稲門会の末席に参加させていただいて

(東洋経済新報社制作室長・平4数)

特別対談

富樫 建 × 筑紫恒男

「本の価値」を全国津々浦々に届けることこそ使命

筑紫 改めて、社長(富樫)就任、おめでとうございます。

富樫 ありがとうございます。

筑紫 それにしても48歳とはお若い。早稲田卒業は何年？

富樫 卒業して25年ですから、1999年、平成11年ですね。

筑紫 えーっ！僕は昭和44年、1969年の卒業だから、丸30年も違うのか。で、先輩だから不躰に聞くけど、なんでその若さで社長になったの？

富樫 運がよかったです。本当に周りに恵まれました。

筑紫 真面目に仕事に取り組んできたからでしょ？

富樫 そうですね。社会人になってからは、自分で言うのもなんですけど、けっこう真面目にやりました。学生時代はお世辞にも真面目とは言えませんでした(笑)。

最初に配属されたのは経営戦略室で、上司が稲門の先輩、大河内(充)課長(当時)で、それで日販稲門会にも入ることになって…。

筑紫 日販さんの社内に稲門会があるんだ？

富樫 はい。古屋(文明)や大久保(元博)、宮路(敬久)にもかわいがってもらいました。出版稲門会に初参加したのも、宮路に誘

われて…。筑紫 そもそも早大を志望したのは？

富樫 父が早稲田を受けてみようと言ったのがきっかけでした。父自身は技術畑で稲門ではありませんが、早稲田大学に対して良いイメージを持っていたんでしようね。勉強もさることながら、多様な人間が集まる東京の大学という社会で採まれて人間修養をしろ、という意味だったんじゃないかと受け取っています。

筑紫 そりゃ、お父さんに感謝しなといけないね。

富樫 そうですね。自分でも、これといった明確な目的はありませんでしたが、とにかく早稲田で大学生を送りたい、という思いで入学しました。

筑紫 どんな学生だったの？

富樫 お恥ずかしい話ですが、バイトとサークル活動に明け暮れて、何とか単位だけ確保するとい…。

筑紫 それは、みんな同じだよ。ただ、自慢じゃないけど、僕は理系で実験があったから、授業は全然サボらなかつたけどね(笑)。

ところで、社長業はいかがですか。業績の方は…。

富樫 大変厳しいです。筑紫 われわれ出版社からすると、取次業の今後が心配で…。富樫 「本屋さんがなくなる！」という報道が、一般にもなされるようになっていきます。書店の減少は残念ですし、業界の存続にかかわる課題だと思っています。従来のビジネスモデルが成立しなくなっているのだとすれば、改革の機会とも捉えられる。環境変化を受け入れて、持続可能な新しいモデルを確立しなければいけません。それは単純に紙媒体がデジタル化されて、電子書籍に代替されるという話でもない。本屋さんの良さをその価値を残す、あるいはさらに増やすために、具体的に何をすればいいか、が問われているんだと思います。やっぱり私もそこからは出発した会社ですし、それが企業としての社会的な存在意義だと自負しています。

筑紫 だけど、出版の周辺ビジネスとかグループ会社など事業の多角化で経営のバランスを取っているのは事実でしょ。日販さんだけじゃないけど、「本を売る」ことからそっぽを向いてない？

富樫 いやいや、決してそんなことはありません。むしろ、出版から派生した周辺事業の存在があるからこそ、「本を売る」商売を持続し、拡げることができてるんです。

筑紫 子どもの数が減って、本を読む習慣がなくなり、さらにデジタル化が追い打ちをかけている

早稲田大学校歌

相馬御風・作詞
東儀鉄笛・作曲

一、都の西北 早稲田の森に

響ゆるる豊は われらが母校

われらが日ごろの 抱負を知るや

進取の精神 学の独立

現世を忘れぬ 久遠の理想

かがやくわれらが 行手を見よや

わせた わせた わせた わせた

わせた わせた わせた

三、あれ見よかしこの 常磐の森は

心のふるさと われらが母校

集り散じて 人は変れど

仰くは同じき 理想の光

いざ声そろへて 空もとどろに

われらが母校の 名をはたたへん

わせた わせた わせた わせた

わせた わせた わせた

紺碧の空

住 治男・作詞
古関裕而・作曲

一、紺碧の空 仰ぐ日輪

光輝あまねき 伝統のもと

すべりし精鋭 闘志は燃えて

理想の王座を占むる者 われ等

早稲田 早稲田

覇者 覇者 早稲田

二、青春の時 望む栄光

威力敵無き 精華の誇

見よこの陣頭 歓喜あふれて

理想の王座を占むる者 われ等

早稲田 早稲田

覇者 覇者 早稲田

早稲田の栄光

岩崎 巖・作詞

西條八十・補作

芥川也寸志・作曲

一、栄光はみどりの風に

花ひらく若き日の歌

重ね来し歴史尊く

受け継ぎて輝く早稲田

早稲田 早稲田

我等の早稲田

二、ふり仰ぐ時計の塔に

青春の眸は澄みて

雲と湧く文化の理想

担い立つ我等たくまし

早稲田 早稲田

我等の早稲田



。この状況下で、どういうことが求められると思いますか？

富樫 口幅つたいですが、本には無限の可能性があると確信しています。その意味では、出版社さんには是非とも、いい本をつくっていただきたい。最近、たまたま『文化資本の経営』(ニューズピックス)という、資生堂の福原義春会長(当時)が25年前に出された書籍の復刻版を読んだのですが、その価値は今もまったく古びていない。今で言うパーパスとか人的資本、ESG経営や資生堂の企業理念が書かれていて、それがたった1800円で買えるんですから。

筑紫 たしかに本の価格は安すぎるよね。他の商材に比べたら価格が上がりついでない。小売店の利益に直結する問題でもあるし。

富樫 付箋をつけて備忘としてたり、何度でも繰り返し読める。そう考えると、決して価格は高くない。本の価値、魅力つてすごいなつて素朴に実感しているんです。

筑紫 いい本には著者や編集者の熱意や創意が込められている。出

版社も、自分たちがつくった本が、価格に見合った価値を持っているんだという矜持を持ちたいね。

富樫 その、本に込められた価値を、津々浦々に届けるのが私たちのDNAなんです。そのためにも「人が本と出会える場」である書店を地域社会のインフラとして残さなくてははいけません。本に接し本の楽しさを知った子どもが、大人になりその子どもにも読書の楽しさを伝えていく。そんな長期的な好循環を生み出すには、地元

書店があるかどうかにかかってきます。今後は書店と図書館のハイブリッドのような形態も考えられますが、形は変わっても、書店の価値を残すために、日販グループとして、いろいろな施策に取り組んでいますし、さらに推進していきます。

富樫 大いに期待していますよ。

富樫 ただし、うちだけでは解決できない課題も少なくない。配送の問題もあれば、出版社さんのマーケティングに役立つ情報インフラの構築とか。

富樫 程よい距離感がいいのかもしれないですね。ふだんとは違う、新たな気づきや視点を得られたり。

筑紫 特に早稲田には、雑多でいろんなタイプの人間がいて、日本社会の垣根みたいなところもある。そうした多様な個性が、集まり参じて、肚を割って忌憚のない話をする。そうして、お互いに刺激を受ける。それがいいんだよね。だからこそ、ぜひ多くの校友に参加してほしいですよ。

富樫 11月には三田会との合同懇親会が開催されるそうですね。

筑紫 そうそう、日販さんからもたくさん参加してくださいよ。

富樫 慶應出身の中西(淳一)たちも誘って、ぜひ参加します。

筑紫 ぜひぜひお願いします。楽しくやりますよ。そうやって縁ができて顔見知りになると、すぐに何かの役に立つわけじゃないとしても、いつか仕事上の役に立つこともあるんだなあ。不思議なんだけど、それが稲門会の魅力、価値だとつくづく思うんです。



筑紫恒男
出版稲門会会長
建帛社会長(昭44教)

富樫 建
日販グループ
ホールディングス社長(平11一文)

慶應義塾塾歌

富田正文・作詞
信時潔・作曲

一、見よ

風に鳴るわが旗を

新潮寄するあかつきの

嵐の中にはためきて

文化の護りたからかに

貫き樹てし誇りあり

樹てんかな この旗を

強く雄々しく樹てんかな

あゝわが義塾

慶應 慶應 慶應

三、起て

日はめぐる丘の上

春秋ふかめ揺ぎなき

学びの城を承け嗣ぎて

執る筆かざすわが額の

徽章の蒼世に布かん

生きんかな この丘に

高く新たに生きんかな

あゝわが義塾

慶應 慶應 慶應

若き血

堀内敏三・作詞作曲

一、若き血に燃ゆる者

光輝みてる我等

希望の明星仰ぎて此処に

勝利に進む我が力

常に新し

見よ精銳の集う処

烈日の意気高らかに

遮る雲なきを

慶應 慶應

陸の王者 慶應

丘の上

青柳瑞穂・作詞

菅原明朗・作曲

一、丘の上には空が青いよ

ぎんなんに鳥は歌うよ歌うよ

ああ美しい我等の庭に

知識の花を摘みとろう

三、新しい時代の鐘がひびくよ

若人の胸は躍るよ躍るよ

ああ華やかに若き命を

声張り挙げて歌おうよ





顔を合わせての会合を望む

出版稲門会会長
筑紫 恒男

5年ごとに開催している出版三田会との合同懇親会が今年持たれず。第1回目を1988年に行って今回で8回目となりますが、無事に今年開催できることを喜びたいと思います。

「存じのように、前回(2019年)開催後、新型コロナウイルスが流行り、多くの集會が持てなくなりまし。当会も2020年・21年は開催を見送り、22年は日本出版クラブ会館で開きました(出版三田会は2020年・21年も出版クラブで開催したと聞いています)。

当会のような会は、顔を合わせるこがなと意味がありません。顔を合わせるこによって会話が始まり、お互いを認識し、同窓生であることを意識できるのです。そのこが自分自身の人間関係にも役立ち思ってもいないところで生きるこがあります。出版三田会との合同懇親会でも同じこが言えます。したがって、合同懇親会が滞りなくできるこは、とても大事なこです。コロナウイルスで集まりが持てなかつたこは、自身の仕事上でも大変問題でした。関係する学会がオン

ラインやハイブリッドで開催されることなり、多くの先生に直接お会いする機会が無くなりました。先生方にとつても、他校の先生との意見交換、雑談がなく、情報収集に困つたこの話をよく伺います。

毎年多くの先生方が集まる学会で著者・採用者の先生方と交流し、新刊の企画を相談し、発行した新刊の紹介・販売を進めているわけですが、それができないため、新刊企画点数の減少、出版活動の低下につながっています。学生減がそれに拍車をかけ、出版界は明るくありません。まことに残念なこです。

新型コロナ禍により、会社に出社せずに仕事をリモートで進める傾向が強まりました。単純に決められた仕事をするにはそれで良いかもしれませんが、多くの仕事は、お互いの想い・考えを理解し、共有しながら進めるものです。顔を合わせ、お互いの表情を見ながら話を進めるこが重要だと認識しています。

合同懇親会も含め、いろいろなお付き合いが普通にできるようになるこを望んでいます。

(建稲社社長・昭44教)

早稲田界隈

▼8月、岸田文雄首相(昭57法)が9月の自民党総裁選に不出馬表明。旧統一教会問題やら裏金事件をめぐって立ち往生、支持率をぐんぐん低下させていた。逃げ道なしで退路を選択したのだろうか。松野博一官房長官(昭61法)も裏金で早々に辞任に追い込まれて校友コンビの政権は3年で潰える。「新しい資本主義」を標榜して出発したがあれは一体何だったのか。

▼立憲民主党も同じく代表選となり野田佳彦元首相(昭55政)や枝野幸男前代表が出馬して新味なところ。国民に信頼なし期待なしの政界に五木寛之元先輩(昭32文・除籍)がきびしく繰る。「このところ新聞は自民党の総裁選のニュースでおおにぎわい。はたしてどれほどの読者が関心を持つているのだろうか」(連載11944回「流れゆく日々」・「日刊ゲンダイ」)。

▼校友の多くが今年一頻り快哉をあげたのは新聞記者との二刀流に生きる一力遼棋聖(令2社)の大活躍。囲碁の世界メジャー「応氏杯」で中国・韓国勢を退け

て日本勢19年ぶりの優勝を果す。本因坊・天元を併せ保持する三冠は、その後も破竹の勢いで9月現在、名人戦七番勝負にも挑み二戦先勝中。祈・健闘!!

▼パリ・オリパラの校友たち。日本大につぐ大選手団で挑む。レスリング女子50kg絶対女王の須崎優衣(令4ス)がまさかの初戦敗退。しかし辛くも生き残った敗者復活戦で銅メダルを獲得、女王の強さを証明した。さすがといえば、パラ水泳の鈴木孝幸(平21教)だろう。6大会連続出場37歳、パリではメダル4個、パラ累計14個を獲得する。50kg平泳ぎでは16年ぶりに記録更新する離れ技も、すごい。

▼東京オリパラをめぐる贈賄罪で逮捕起訴されたKADOKAWAの角川歴彦元会長(昭41政)。罪状否認を続けて長期拘束される。体調が悪化しようが、かまわず拘束する。いわゆる「人質司法」は許せないと角川元会長は、2億余円の国家賠償を求めて提訴。人権問題ではないかと取り沙汰される我が国の検察・司法の実際。怒りの提訴を支持する声は少なくない。

▼「文芸春秋」十月号「私学の雄」を徹底比較! 看板教授の早慶戦」と題する特集が面白い。半世紀以上に前に卒業した小生には目新しい国際教養学部。留学生も多く英語による授業体制で近年評判よく、母校で最難関学部になっているらしい。時代の要請だろうか。(國師尚幸元・六耀社/ほる出版社長・昭43法)

編集雑記

▼図書館でのボランティアがきっかけで司書資格を取ろうと思いついた、明大の夏期集中講座を受講しました。当初の甘い予想とは大違い。理論と実践の授業は、月から土までの毎日。さらに週二回の試験というハードスケジュール。2か月間、一緒に乗り越えた校友の飲み友たちもでき、今は出版業界と図書館の未来を考えてみたいと思っています。(北口克彦・昭56政経)

▼1984年ロシアゼルス五輪の当時、書店で働いていた私は「オリンピックの時期は本が売れない」というジンクスを身をもって実感していた。だが昨今は「五輪と関係なく、本が売れる時期が無いのでは」という状況になっている。嘆いていても仕方ないので、今日もネタ探しに動き回る。(富永靖弘・昭59商)

出版稲門会40周年・出版三田会45周年 記念合同懇親会のご案内

記

日時: 2024年11月21日(木) 18:30~(受付 17:30~)
会場: 銀座・交詢社
東京都中央区銀座6-8-7 交詢ビル9F
TEL.03-5537-1311(代表)
※上着とネクタイ着用のこと
会費: 50歳以上 8,000円/50歳未満 5,000円
※お差し支えなければ当日、別途年会費をお預かりいたします(9月1日現在 50歳以上 5,000円/50歳未満 3,000円/ただし、50歳未満の初参加者は免除)